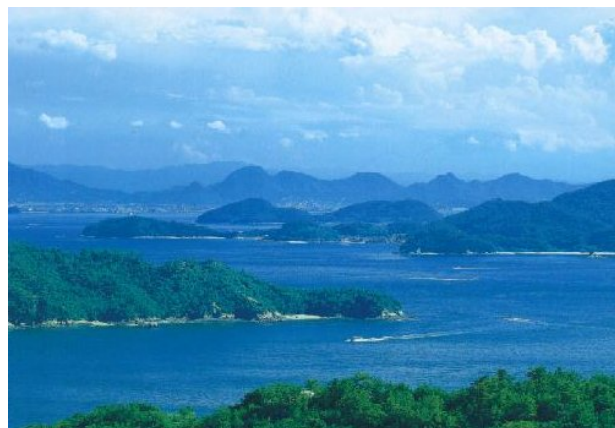


## エメックス 90「瀬戸内海宣言」

我は、世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス90）のために、瀬戸内海東部の兵庫県神戸市に参集し、閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用という緊急な課題について討議を行った。陸域に相当部分を囲まれた閉鎖性海域は、その恵まれた自然条件ゆえに、古くから漁業や産業活動等の場として、またさらには海上交通やレクリエーションの場として利用され、豊かな日常生活を支えるとともに、さまざまな文化を育んできた。しかし、海のもつ大きな恩恵を過信して、人類の営みがなされる時、閉鎖性海域



の環境の悪化は、その恵みを失わせることになりかねない。我々は、世界各地の閉鎖性海域において、優れた環境が危険にさらされており、閉鎖性海域の環境の保全と適性な利用は、地球的規模の緊急な課題であるとの考えに立ちつつ、次の諸点が重要であることを強調する。

1. 閉鎖性海域優れた環境と大きな恵みは、将来の世代にも引き継がれていかなければならない。このため、すべての関係者が、閉鎖性海域の環境を保全しつつ、その利用を持続的に進めていく道を探求していかなければならない。国際的にも、地域的にも、技術移転や情報交換のみならず、閉鎖性海域についての各種分野の協力が一層促進されなければならない。  
また、閉鎖性海域は人々の営みと深くかかわっているため、環境教育を幅広く展開し、人々の環境保全に対する意識を一層高め、積極的な住民参加により、環境保全を適切に進めることができるようになることが望まれる。
2. 閉鎖性海域は、海水の交換が悪いため、一旦汚染されると、その回復には大きな困難を伴う。また、多くの閉鎖性海域において、赤潮や貧酸素水塊が発生し、漁業やレクリエーションに大きな影響を及ぼしている。閉鎖性海域の水質、低質の汚染を効果的に防止するため、汚染状況の把握、生態系に与える影響、赤潮や貧酸素水塊の発生機構と、その防止のための方途や技術についての研究、情報交換や監視が一層促進されるべきである。  
また、閉鎖性海域の動植物の生息地と漁業資源の保護及び地球温暖化の潜在的な影響についても、さらに研究の進展が図られるべきである。
3. 陸域と海域の環境は、互いに深くかかわっており、土地利用、産業活動、埋立及びその他の活動は、沿岸域の水質、生態系、自然景観及び海洋環境等に影響を及ぼし得る。沿岸域の環境保全と持続的な利用を進めるためには、沿岸管理の総合的なアプローチが必要であるが、これは国や地方自治体の間の緊密な協力があって達成されるものであり、それには強力な政治的指導力と、関係者間の合意が求められる。

総合的なアプローチには、公益的なまた地域的な計画と、周水域や周辺地域から流入する重金属有害科学物質、有機汚濁物質やその他の汚濁物質に対する施策や適切な規制も含まれることが望ましい。

加えて、沿岸域の自然景観等を保全するための措置も必要である。このような施策を効果的に実施するためには、規制措置と経済的手法の適切な組み合わせが必要であり、またその実施状況は、適宜見直されることが望ましい。

4. これまで述べてきたことは、閉鎖性海域の環境を保全しつつ、その利用を持続的に進めていくためには、自然科学、社会科学、及び人文科学等、すべての専門領域分野からの総合的な貢献が必要であることを示している。そのため、学才的、かつ総合的な研究及び国際的な情報、意見交換を一層促進する機会が、定期的にもたれることを強く期待する。

瀬戸内海については、瀬戸内海研究会議の組織化が図られ、瀬戸内海の環境保全と適正な利用についての研究が、一層促進されようとしていることを歓迎する。

5. 先進国開発途上国いずれにおいても、閉鎖性海域の持続的な利用は、全世界にとって特に重要な問題である。先進国に見られる閉鎖性海域の環境汚染問題を再び繰り返さないためにも、先進国から途上国への知識、及び経験の移転が一層促進されるべきである。

日本国政府が、閉鎖性海域の環境管理技術を途上国へ移転するため、1990年より研修事業を開始しようとしていることを歓迎する。我々は、閉鎖性海域にかかわる世界各国の関係者が、エメックス90に集い、海はすべての国をつなぎ、生命の源であるとの認識に立ちつつ、各海域についての情報や経験を交換し、環境を保全しつつ、持続的な利用を進めていく途をさぐることができたことを高く評価する。

エメックス90が、地球的規模の閉鎖性海域の問題を考える上で、多大な貢献をもたらしたことを確信するとともに、閉鎖性海域に関わる環境問題の広範さと重大さをかんがみ、このような機会が近い将来再びもたれることを強く期待する。

1990年8月6日  
世界閉鎖性海域環境保全会議